

# 葛城市地球温暖化対策実行計画（区域施策編） 概要版

## ■計画策定の背景

近年、地球温暖化を起因とする気候変動の影響は深刻なものとなっており、猛暑日日数の増加や集中豪雨による自然災害の発生頻度の増加など、私たちの生活や社会、経済活動に深刻な影響を及ぼしています。

葛城市では、2007年に「葛城市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」を策定し、本市の事務事業に伴う温室効果ガス排出量の削減に向けた取組を行っています。また、2007年から5年おきに改定を加え、策定しており、2021年12月16日には「ゼロカーボンシティ宣言」を行いました。

本計画は、環境省補助事業である「地域脱炭素実現に向けた再エネの最大限導入のための計画づくり支援事業」を活用し、2050年までの脱炭素社会実現を見据え、本市域における温室効果ガス排出量を削減するための取組を示すものです。

## ■計画の位置づけ

本計画は、「地球温暖化対策の推進に関する法律」第21条第4項の規定に基づき、自然的社会的条件に応じて、温室効果ガス排出量削減等に関する事項を定めるものです。

また、上位計画となる国の「地球温暖化対策計画」等の内容を踏まえ、本市の最上位計画となる「葛城市第二期総合計画」に即し、各種関連計画との整合を図ります。

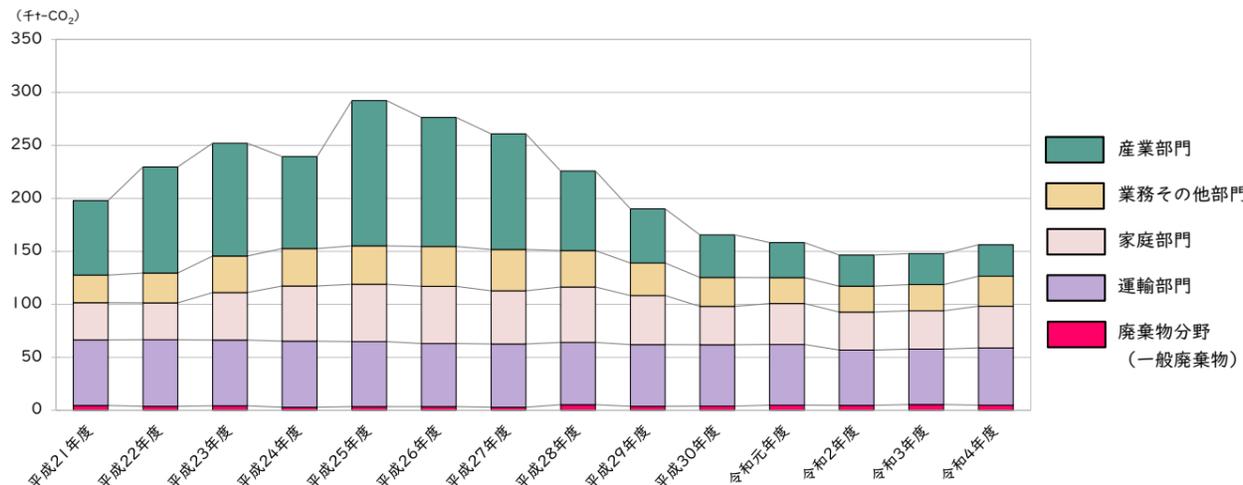
## ■計画期間

計画期間は、国の地球温暖化対策の目標年次に準じ、2026年から2030年までの5年間とします。また、基準年度を2013年度とし、目標年度を2030年度とします。さらに、「葛城市ゼロカーボンシティ」宣言を見据えて、最終目標年度を2050年度とします。

なお、社会情勢の変化や取組の実施状況等を踏まえ、適宜計画の見直しを行うこととします。

## ■温室効果ガス排出量の現状

葛城市の2022年度（令和4年度）の温室効果ガス排出量は156千t-CO<sub>2</sub>で、基準年度である2013年度（292千t-CO<sub>2</sub>）比で46.5%削減されています。削減要因としては、産業部門の製造業が激減したことがあげられます。

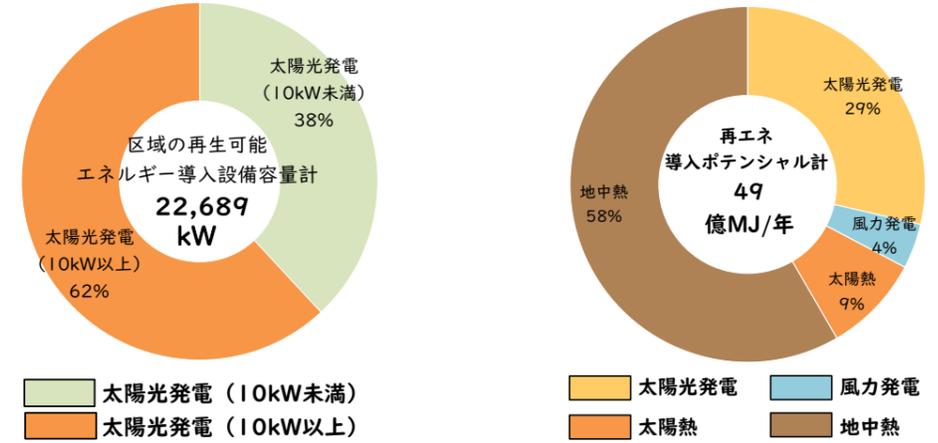


葛城市におけるCO<sub>2</sub>排出量の推移

出典)「自治体排出量カルテ(葛城市)」(環境省)を加工。

## ■再生可能エネルギーの導入量及び導入ポテンシャル

葛城市の令和5年度の再生可能エネルギー導入量は、太陽光発電(10kW未満)が8,639kW、太陽光発電(10kW以上)が14,050kWの計22,689kWとなっています。また、「再生可能エネルギー情報提供システム(REPOS)」によると、本市の再生可能エネルギー導入ポテンシャルは、再生可能エネルギー(電気)が449,721MWh/年、再生可能エネルギー(熱)が3,330,081GJ/年となっています。



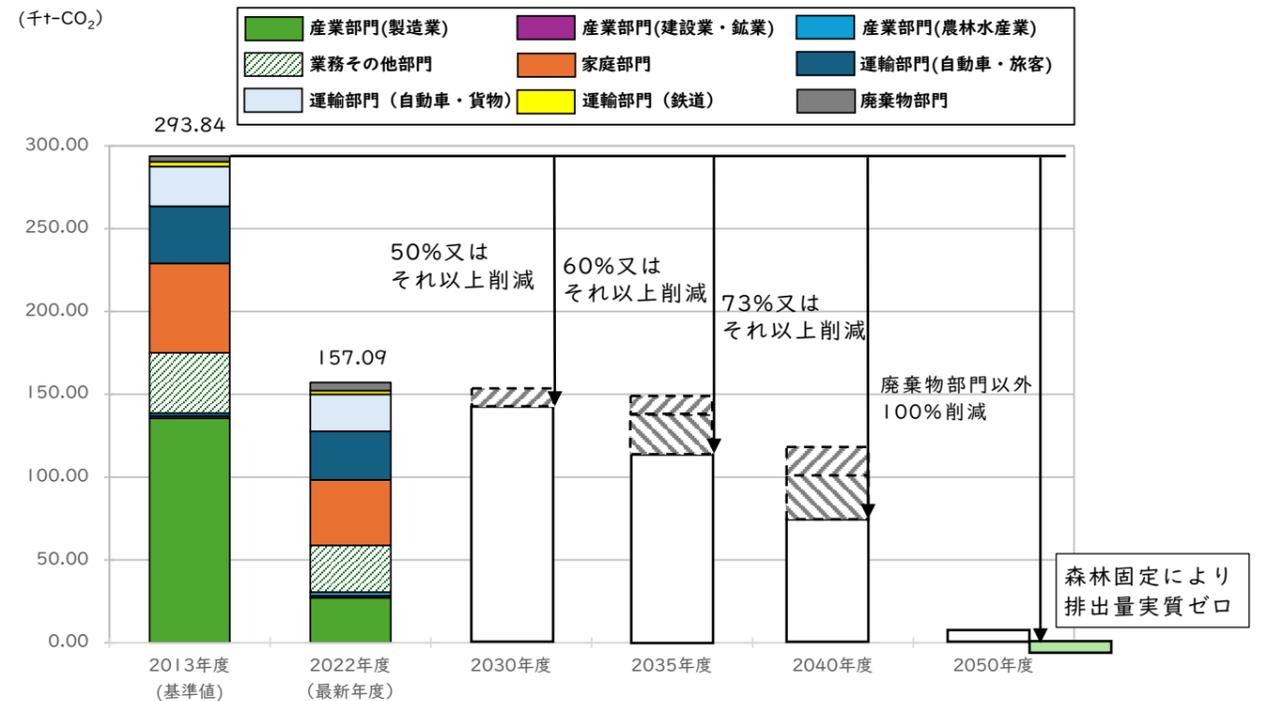
葛城市における再生可能エネルギー導入割合と導入ポテンシャル

出典)「自治体排出量カルテ(葛城市)」(環境省)を加工。

## ■脱炭素シナリオ

本市では、2013年度を基準年度とした最新(2022年度)の削減量は、約50.4%になっています。このことから、本市における2050年度までのロードマップとしても、2013年度を基準として、2030年度で50%削減を中間目標とし、可能な限り50%以上の削減を目指すものとします。

各種取組を推進することで、2050年度に廃棄物部門以外の排出量を100%削減し、廃棄物部門のCO<sub>2</sub>排出分については、森林固定によりCO<sub>2</sub>排出量実質ゼロを目指します。



2050年ゼロカーボンシティまでのロードマップ

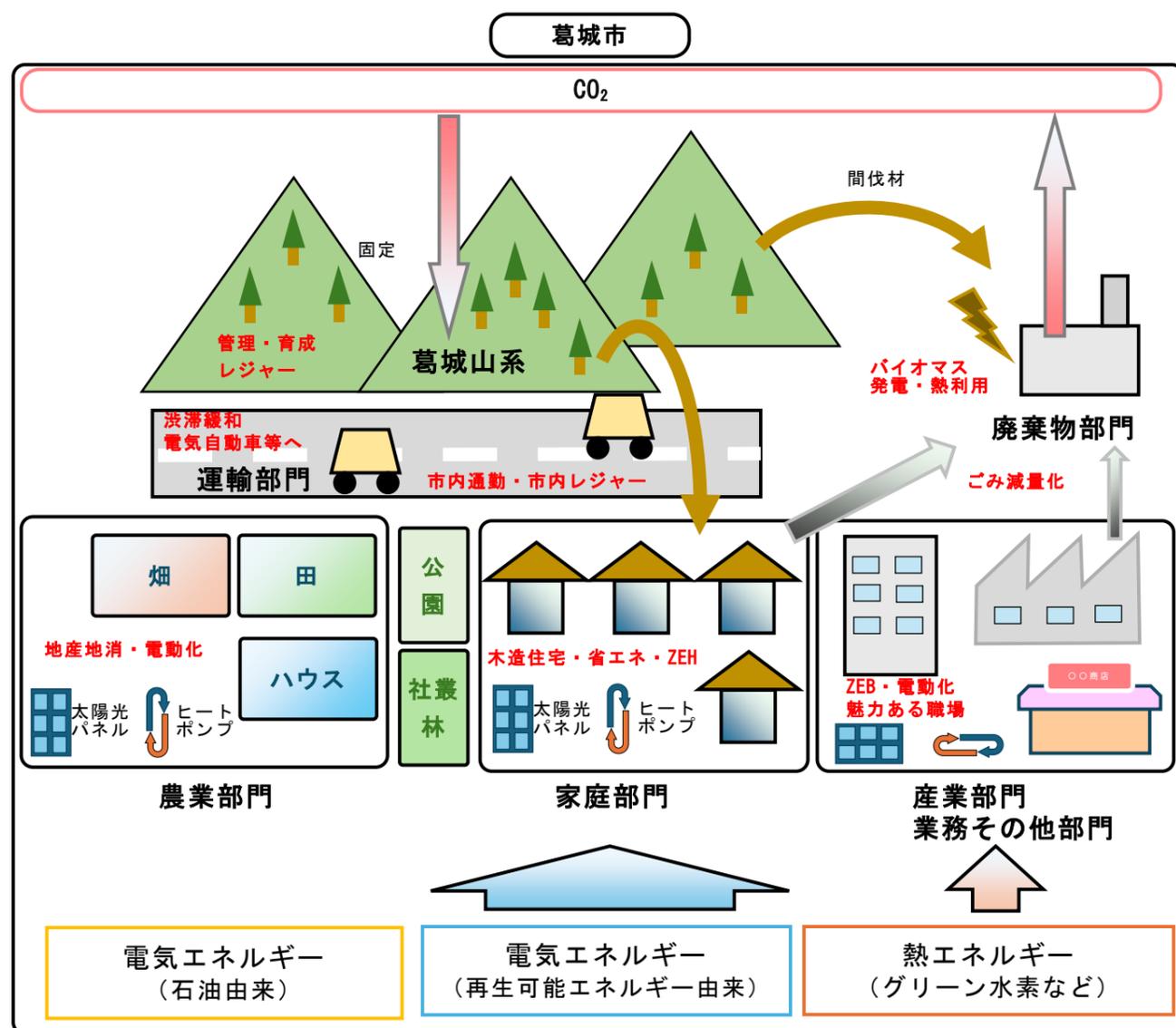
■葛城市の目指す将来像

2050年カーボンニュートラルの実現は、現在の取組を継続するだけでは困難であり、住民一人ひとりが省エネ行動を実践し、意識を高めることが重要となります。

また、市民・事業者・行政が協働して取組を行うことが2050年カーボンニュートラルの実現に近づきます。

本市では、2050年ゼロカーボンシティの実現に向けて、以下のようなまちを目指します。

葛城の文化・伝統を継承し、祈りの里・農の里として、自然資源・文化歴史遺産を守りはぐくむため、産業や文化が活発に展開する、昔と今が共生する地域



地域の将来像

■基本方針と施策体系

2050年ゼロカーボンシティ実現に向けた基本方針と施策体系は以下に示すとおりとなります。

目指すまち	基本方針	基本施策
葛城の文化・歴史遺産を守りはぐくむため、祈りの里・農の里として、産業や文化が活発に展開する、昔と今が共生する地域	(1)再生可能エネルギーで暮らすまち	①PPA等による再エネの導入・利用の促進 ②太陽光発電の新技术の導入・利用の促進 ③太陽光発電の導入促進 ④バイオマスエネルギーの導入促進 ⑤未利用エネルギー等の導入促進 ⑥エネファームの導入促進
	(2)省エネ行動が浸透したまち	①省エネスタイルへの転換の促進 ②「デコ活」普及啓発活動推進事業 ③魅力ある職場づくり ④自発的な行動変容を促す普及啓発の促進 ⑤エコドライブの普及促進 ⑥自転車等の利用促進 ⑦3Rの促進 ⑧食品ロスの促進 ⑨環境教育・啓発の促進
	(3)省エネな暮らしをしてしまうまち	①省エネルギー型機器の導入促進 ②次世代自動車の導入促進 ③公共インフラの利便性向上 ④地産地消(地消地産)の推進 ⑤魅力ある職場づくり ⑥魅力あるレジャー
	(4)豊かな自然(葛城山系など)の恵みがもたらされるまち	①森林の保全・整備の推進 ②市産材の利用促進 ③魅力ある職場づくり
	(5)歴史文化が息づく誇れるまち	①木造住宅を主体としたまちづくり ②公園・社叢林の保全・管理
	(6)多様な連携により脱炭素化を加速するまち	①市民協働による取組の推進 ②次世代産業への取組支援

■指標の設定

各部門に関する2030年度における目標数値を以下のように設定しました。

部門	指標	現状数値	目標数値(2030年度)
産業部門 業務その他部門	市内特定事業所の温室効果ガス総排出量	34.1千t-CO <sub>2</sub> (2021年度)	23.5千t-CO <sub>2</sub>
家庭部門	住宅への太陽光発電(10kW以下)の導入実績	1,780戸(2023年度)	2,500戸
運輸部門	環状線バス、ミニバス、予約型乗合タクシーの1日平均利用者数	145.0人(2024年度)	145.0人
廃棄物分野	市内の廃棄物総排出量	13,516t(2022年度)	11,972t
全般	市内の再生可能エネルギー設備導入量(kWh-CO <sub>2</sub> 換算値)	12.1千t-CO <sub>2</sub> (2023年度)	48.4千t-CO <sub>2</sub>

葛城市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)【概要版】

発行: 令和8年3月 葛城市市民生活部環境課

〒639-2195 奈良県葛城市柿本166番地 TEL: 0745-69-3001 FAX: 0745-69-6456